

ソフィア

～知恵(ギリシャ語)～



特集	若者たちのジェンダー意識は今	P2
講座レポート	ストップ!DV-配偶者・恋人からの暴力ー 田中 妙子さん	P4
連載企画	ひとりで悩んでいませんか?～ドメスティック・バイオレンス～ ..	P5
インタビュー	～女と男～ソフィア's Voice 助け合いの達人 小林 房子さん	P7



若者たちのジェンダー意識は今

これからの社会を担う若者は、社会的・文化的につくられた性差であるジェンダーについて、どのように考えているのでしょうか。

ジェンダーの意味は知らなかったけど

関西大学法学部1回生のいくつかのグループが、「男女共同参画社会について考えよう」のレポートを完成させるために、デュオの情報資料室を訪れました。朝から夕方まで大論戦が繰り広げられることもあり、それによって若者たちのフレッシュな考えを聞くことができました。次に紹介するのは、取材に集まっていた皆さんの意見です。

「他国から見た日本のジェンダー問題」を考える

ジェンダーとはどういうものかをあまり知らなかったもので、感覚的に話すより、まず本を読むことにした。はじめは、ジェンダー問題を解消するには、積極的に制度を変えていく必要があると思っていたけれど、そうは思っていない人もいることが分かって、今はいい意味で客観的、冷静に考えるようになった。(男)

女性を意識しすぎて話をするのが苦手だったけど、女性も男性も一人の人として見るようになって、抵抗が少なく話せるようになってよかった。(男)

スウェーデンでは、学生運動で男女平等を取り上げた人たちが国会議員などの社会的な地位に就いたことで、全体に意識や制度が広がったことが分かった。これからは自分たちの役割だと思うけど、社会に出るとまだジェンダーの課題が多くあって、厳しいと思う。(女)

外国のことを調べていたら、日本も変わっていくべきだと分かったけど、変わり方は慎重に議論すべきだと思う。(男)

取材を通して

ある学生さんにとってはあたりまえと感じてきたことが、実社会では決して当たり前ではない、ということに気づききっかけの一つになったという事実一つとっても、ジェンダーを授業に採り入れた意味は大きいと感じました。若者自身は、ジェンダーによる固定的な決めつけや偏見から受ける実際の苦しい経験は少ないかもしれませんが、でも、自分の親のありようや身近な人の体験にふれたり、セクシュアル・ハラスメントなどの社会問題をメディアで知ったり、本を読むことに

よってジェンダーについて考えることの必要性を感じている様子がわかりました。また、レポート作成のための学習や議論を経験することで、このままではいけない、自分たちに何ができるのかという問題意識を持ち始めていることも感じとれました。

これを機会に、これからもジェンダーに敏感な視点を持ち続けてほしいと思います。



「セクシュアル・ハラスメントから考える労働とジェンダー」を考える

セクシュアル・ハラスメントを無くすためには、人の内面から変えていかなくては。罰より子どものごころからの教育が大事だと思う。(女)

女性全部、わたしと同じ「男性は女性の敵だ」という考えだと思い込んでいたけど、そう思わない人が多くいて、自分がかえって少数派であることに気づかされた。でも、セクシュアル・ハラスメントを起こしている男性を教育で何とかしようとしても、人は気づいて変わるまで時間がかかる。無くすには、罰を重くするのが一番いいと思う。わたしが生きているうちに何とかしてほしい。(女)



指導された大津留(北川) 智恵子教授からのコメント

ジェンダー差別をおこなう人には、女性だけではなく、宗教や民族など、自分と異なる立場の人に対等の扱いをする必要がないという感覚があると思います。他者の尊厳、つまり、自分以外の人を理解し尊重する

男性は皆、セクシュアル・ハラスメントはひと事だとか、自分には関係ないとか軽く考えていると思っていたけど、しっかりと理解しようとする男性が身近にいたことが発見できてよかった。(女)

「男は仕事、女は家庭」で、世間はうまく回っていくと思っていた。でも、「男だから、女だから」と決めつけられることで、男性も女性も生きにくいことがあるのが分かった。男性も女性も1つのパターンではないし、自分一人では思いつかない考え方もある。ジェンダーの思い込みを無くして人が幸せになるのは、話し合いによって男女が互いに理解し尊重し合うことだと思う。(男)

こと、ひとりひとりを大事にするという基本ができていません。いろんな立場を認め合える社会、選択肢がいくつもある社会、自分自身の生き方、他人の生き方を互いに尊重できる社会が望まれます。